

## 明治維新につながる歴史のターニングポイント

### 生麦事件 慰霊祭に参列しました

小林寿太郎

金融・労働研究ネットワークの会員の小林寿太郎さんから、生麦事件慰霊祭報告記事をいただきました。以下に紹介します。

8月21日は横浜市鶴見区生麦で1862年（文久2年）8月21日、生麦事件が起きてから161年たち、地元の人達が開いた慰霊祭に参列しました。

島津藩の島津久光（藩主の父で藩政の最高実力者）は幕政改革を進言するため江戸にきていましたが一応、目的を果たし、京都の朝廷を訪問することになり400の軍勢を率いて東海道を進んでいました。

午後2時頃、生麦で乗馬のイギリス人4名と遭遇しました。その少し前、島津藩の行列は乗馬のアメリカ人と遭遇しましたがアメリカ人は下馬して脱帽して行列を見送ったので問題は起きませんでした。ところがイギリスの4名は日本の事情に疎く、当時の東海道は主要幹線道路とは言え道幅は狭いため、乗馬したまま行列に入り込んでしまいました。

このため薩摩藩士は行列を妨害したとして抜刀して切り付け1名死亡、2名重傷となりました。落馬して殺されたのはチャールズノックスリチャードソン（29）で、瀕死の重傷を負いながらも何とか馬にしがみついたまま逃げ切ったのはウッドソープチャールズクラーク（29）とウィリアムマーシャル（35）です。

既婚女性のマーガレットボロデール（28）は赤い帽子を落としただけで怪我はありませんでしたが重いPTSDとなりました。横浜の外国人居留地に住むイギリス人、アメリカ人、フランス人は憤激して多数が武装して現場に駆けつけリチャードソンの遺体とマーガレットの帽子を引き取りましたが生麦の住民と揉めたようです。

この事件は薩英戦争を引き起こし明治維新につながる歴史のターニングポイントでした。今でも地元の人達が慰霊祭を開いています。（小林寿太郎）

以下は地域情報紙「タウンニュース」横浜鶴見区版2022年8月18日号からの紹介です。

#### 生麦事件「地元の事件、忘れないで」

生麦事件参考館館長の浅海武夫さん（91）に聞きました。

浅海さんは、1994年に事件の史料を集めた私設の「生麦事件参考館」を開館。きっかけは76年まで遡り、当時同地区で酒屋を営んでいた浅海さんの店に、事件の碑を見学に訪れた人から「事件の碑があるのになぜ史料館がないのか」という声を聞いて。

歴史に興味はなかったが、「地元の責任として記録を残しておかなければ」と一念発起。海外にも問い合わせるなど、錦絵や写真、文献など約150点を集め、自宅敷地内に参考館をオープンさせた。

同館の運営だけでなく、これまで全国250カ所以上で講演を行ってきた浅海さん。「参考館にも大人だけでなく、自由研究などで子どもたちが見学に来てくれて、『先生に褒められた』とか伝えに来てくれた時など本当に嬉しい。地元の大切な記憶として、1人でも多くの人に事件のことを知ってほしい」と語った。

地元では生麦住宅の周辺6自治会町会の有志からなる「生麦事件碑顕彰会」が、これまで追悼祭などを行ってきた。同会の久保良正会長は「これからも地元で碑を大切に守っていきたい」と語っている。